


CSR活動

災害対策

「4つの柱」を軸に、緊急時の現場を支援します。

 日清医療食品の災害対策 4つの柱

通信手段の強化

社員の安否確認と同時に、ご契約先事業所でのインフラ状況を確認できる安否確認システムを導入。災害時にご契約先事業所の状況を把握することで、迅速な対応を行います。また、本社・支店・営業所・セントラルキッチン(以下、CK)での連絡体制を確立するため、携帯電話より耐震性があり、災害時でも通話制限を受けないMCA無線を導入しています。

電源確保

災害等の停電時に必要な電源（MCA無線、安否・ライフライン確認システム等）を確保するため、蓄電池を本社・支店・営業所・CKに設置しました。



災害時対応マニュアル

東日本大震災以降にマニュアルを刷新し配布。また、対策の適宜見直しのため定期的に災害対策委員会を開催し、訓練等を実施しています。

ヘリコプターの運用

地震等の被害によって陸路が寸断された場合、陸上の搬送ルートが使えない状況となります。そのためヘリコプター会社と契約し、災害状況、支援物資量に合わせたヘリコプターによる物資搬送を可能にしています。

ヘリコプター会社
ヒラタ学園 / 中日本航空 / 東邦航空



非常用備蓄倉庫の設置

全国17カ所の倉庫に「非常用備蓄品」を設置。ライフラインが寸断されてもスムーズに食事を提供できるよう、非常用品を備蓄しています。

非常用備蓄品

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 備蓄用水 (2L) | 5. 食品用ラップフィルム |
| 2. ディスポ蓋付汁椀 | 6. ガソリン缶 |
| 3. カセットコンロ | 7. プラスチックコップ |
| 4. カセットボンベ | 8. 先割れスプーン |



災害時献立の考案



災害時、食料品の確保は重大な課題です。電気・水道・ガスのすべてのインフラが寸断された場合でも食事サービスの提供が継続できるように、災害時を見込んだ献立の準備および食材の備蓄をしています。

日清医療食品では、365日欠かさず安定した食事の供給を実現するために、様々な災害に対し支援活動を行っています。

日清医療食品の災害対策の基本的な柱、実際の災害への対応事例、また最新の防災に関するトピックなどをご紹介します。

 事例紹介 / 平成30年7月豪雨における対応

2018年(平成30年)6月28日から7月8日にかけて、全国的に広い範囲で記録された集中豪雨では、西日本を中心に河川の氾濫による浸水害・土砂災害などにより、一部の幹線道路の不通、電気・水道・ガスのインフラが寸断される被害が発生しました。日清医療食品が受託するご契約先事業所も被災し、備蓄食材の手配、物資の調達、ヘリコプターによる空輸など、緊急対応を実施しました。

積載内容

- 空路での支援 / 備蓄用缶詰、白粥他
合計 286.9kg (210食分)
- 陸路での支援 / 飲料水 3.6トン、プラスチックカップ、先割れスプーン、ラップ、 Disposable食器 (椀身・椀蓋)



搬入された備蓄食材



ヘリコプターによる空輸

 TOPIC / 可搬型ヘリポート夜間照明「ヘキサゴン」開発プロジェクトに協力

現在、ヘリコプターを活用した災害支援においては日中のみという制限があります。厚生労働省ではドクターヘリの夜間飛行を検討していますが、課題として人員不足、夜間における照明がある着陸場所の少なさを挙げています。さらに、従来のヘリポート夜間照明は高額である上に重く、一人で設置ができないといった課題もあります。このような課題に国立大学法人岐阜大学、学校法人ヒラタ学園、日清医療食品、学生ベンチャーであるヒューロピントの4社で解決に取り組み、安価で一人でも設置が可能な可搬型ヘリポート夜間照明「ヘキサゴン」を開発しました。

日清医療食品の本プロジェクトでのサポート内容



4社による記者会見



設置された「ヘキサゴン」

小型化
高さ30mm
競合他社比81%薄型化
※当社調べ

無線化
操作リモコンから一斉点灯・消灯操作が可能

軽量化
質量1.2kg
競合他社比66%軽量化
※当社調べ

夜間の緊急支援物資輸送拡大に期待

日清医療食品は災害対策における4つの柱の1つに「ヘリコプターの運用」を掲げています。有事の際に支援物資をヘリコプターで空輸できるように契約しているヒラタ学園より、ヘリコプターの夜間飛行における課題解決の相談を受け、本プロジェクトに協力いたしました。「ヘキサゴン」が広く社会に広まることで、支援する幅が広がり、日清医療食品においても災害時の緊急支援物資の空輸時間が拡大するなど、救われる命が増えると考えています。